

「令和7年度 市民トーク」開催結果（相良地区）

以下のとおり結果を報告します。

1 日時等

- (1) 日 時 6月26日（木） 午後7時00分～午後8時25分
- (2) 会 場 相良原子力防災センター サーボ 会議室
- (3) 内 容 市長からの市政報告・地区からの質問
- (4) 参加人数 62人

2 市長からの市政報告

当日の配布資料を添付

3 地区からの質問

別紙のとおり ※事前質問は回答書を配布・当日の会場での質問あり

4 当日の様子



令和7年度 市民トーク（相良地区）質問・要望一覧

日時：令和7年6月26日（木）

19時～20時30分

場所：サーボ

番号	事 項 名	担当部課
1	河川・道路の草刈りについて	建設課
2	道路の整備について	建設課
3	女性から見て牧之原市が「やさしいまち」になったという意識はあるかについて	企画政策課
4	義務教育学校について	学校再編推進室

令和 7 年度 市民トーク
相良地区（6/26 開催）
質問事項・説明を希望する市政内容

件 名	1 河川道路の草刈りについて
内 容	須々木区におきましては、毎年 5 月に河川の草刈り、6 月・11 月に保安林の草刈り、また、9 月には道路の草刈りと年に 4 回実施しています。そうした中ですが、須々木区も 10 年前に比べ人口も 300 人余が減少し、70 歳以上が 35%を占め 60 歳以上は 53%と少子高齢化が進んでおります。 特に、河川の急斜面での草刈りや道路の急な斜面等の枝切り・草刈りが手慣れた人が減少したため作業が困難です。 また、事故等の心配もありますので危険な現場につきましては市での対応をお願いします。 【担当：建設課】
回 答	道路及び河川愛護運動については、その地域にお住まいの皆様が実施する、除草、枝木の伐採、路面清掃や側溝清掃などの実施による美化活動です。市が管理する道路や河川の延長も長いことから、地域の協力を得ながら管理しているのが実情であり、毎年、地域の皆様に活動いただき感謝しております。 ご質問をいただきました河川や道路の急斜面で草刈りや枝切り等に危険が伴う現場については、具体的な場所や実施内容等を確認させていただいたうえで、危険な箇所については、極力市で実施するようにしていきたいと考えております。

令和 7 年度 市民トーク
相良地区（6/26 開催）
質問事項・説明を希望する市政内容

件 名	2 道路の整備について
内 容	須々木区内の県道につきまして、2 か所ほどカーブもきつく見通しも悪いために、小中学生通学時や自転車での走行が危険です。事故のないように道路の整備をお願いします。 ①第 7 分団 2 分詰所前の道路は、空き家を取り壊され見通しが良くなったためにスピードを出して通行する車が増えました。 幼稚園の入り口でもあり横断歩道もありますので危険のないようにカーブを直していただきたいと思います。 ②須々木地代の高塚モータース東側の道路については、現在空き家で管理されていない道路側に面しているために、草や木が道路にはみ出し通行が妨げられています。 また、カーブもきつく対向車も見えませんので歩行者や自転車での走行が危険です。安全に歩行できるように整備をお願いします。 【担当：建設課】
回 答	ご質問の 2 箇所について、その見通しの悪さや道路線形等の状況については確認しています。 道路の整備を行ううえで、土地所有者及び近隣の方の理解をいただけることが必要となりますので、区においても協力をお願いします。 市としても、通行の安全確保のため、整備を検討していきたいと考えます。

令和 7 年度 市民トーク 相良地区（6/26 開催） 質問事項・説明を希望する市政内容

件 名	3 女性から見て牧之原市が「やさしいまち」になったという認識はあるかについて
内 容	3 年目を迎え第 3 次総合計画の中で、「日本一女性にやさしいまちの推進」がありますが、進捗状況の報告から、これで日本一を目指すのかと思われます。 「日本一女性にやさしいまち」を目指すのであれば、女性目線に立っての改革をスピードをもって行わなければ不可能ではないか？ 現状、女性から見て牧之原市が「やさしいまち」になったという意識はあるのでしょうか？ 【担当：企画政策課】
回 答	市では、第 3 次総合計画における重点戦略・プロジェクトの一つとして「日本一女性にやさしいまちの推進」を掲げ、女性目線での子育て、働き方、保育・幼児教育などのサービス充実に向け取り組んでおります。 具体的な取組といたしましては、不妊治療の保険適用外の先進医療分や入学支援金といった経済的な支援を行うとともに、あそぼつとや子ども第三の居場所の整備、こども食堂への支援など、親子で楽しく過ごせる環境整備を進めております。 また、市内の大手企業と連携して女性が働きやすい職場環境づくりを進めるとともに、女性が趣味や特技を活かしてスモールビジネスを創出する「月 3 万円ビジネス」を実施するなど、新たな働き方の創出にも取り組んでおります さらには、保育施設の民営化を計画的に進め、ハード、ソフト両面の充実を図ってきたほか、保育士の配置に関しても市独自の基準

を設け、手厚い保育環境を構築しております。

明日、6月定例会が閉会となりますが、国から追加交付となりました物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用して、18歳までの子ども1人につき3,500円相当分の「まきペイ」ポイントを給付する「物価高騰対応子育て世帯応援事業」に係る費用も計上しているところであります。

以上のように、当市独自の様々な取組を行っているところではありますが、今年度実施いたしました市民意識調査によりますと、「牧之原市が女性にやさしいまちだと思うか」との問いに対し「思う（とても思う＋ある程度思う）」が2割以下に留まっておりますことから、各取組に関する更なる周知に取り組むとともに、市民の皆様の声をお聞きし、ニーズに沿った取組を継続して実施していくことで、認知度、満足度の向上につなげてまいります。

令和 7 年度 市民トーク
相良地区（6/26 開催）
質問事項・説明を希望する市政内容

件 名	4 義務教育学校について
内 容	牧之原市は限界集落問題も発生しています。 厚生労働省 2024 年出生数は 72 万 988 人（日本人出生数 68 万 6,061 人）と国推計より 15 年も前倒しとなっております。2016 年に 100 万人を割ってから 9 年でこの現状です。 牧之原市の昨年（2024 年）の出生数は 163 人です。5 年前は 229 人・10 年前は 336 人と 10 年前の半数以下です。この問題は、地方ではますます加速すると考えられます。 少子化が加速する中で、義務教育学校を榛原と相良につくる計画ですが、見直す選択はないのですか？ 【担当：学校再編推進室】
回 答	平成 31 年 3 月に策定した「望ましい教育環境のあり方に関する方針」では、子どもたちに「次代を切り拓く力」を育むため、「キャリア教育を軸とした小中一貫教育と社会全体で子どもを育む仕組み」を進めるとし、それを充実するための施設として、「安心・安全で学びやすく、通いたい・通わせたいと思ってもらえる魅力的な小中一貫校を目指す。」として学校再編を検討しました。 ご質問のとおり、出生数は年々減少傾向にあり、児童生徒数についても、今年度の児童生徒数は 2,872 人で、10 年前の 2015 年度の 3,467 人と比べると 17%減少しており、今後も減少していくことを予測しています。 減少率は、特に相良小学校区が大きく、これまで 1 学年 3 クラス規模であり市内で一番大きい学校だったのが、来年度に入学する子どもの人数は 1 年生が 1 クラスとなることを予測しています。 新しい学校施設についても、この児童生徒数の減少を見込み、開校時に過大規模にならず、開校後 20 年間はクラス替えができる規模とし、通学距離や地域性も踏まえ旧町の市街地に隣接または近接した津波浸水想定区域外に 2 校で整備する計画を進めてきていま

す。

1校にする案については、学校再編計画を作る際にも検討しましたが、開校時の人数が過大になりすぎてしまい、子どもへの十分なサポートが難しいこと、また、市の中央に近い場所に1校つくった場合は、両市街地から離れてしまい、地域の人が来にくく、教育活動が充実できるとは言い難い上、9割の子どもがバス通学になります。

児童生徒数が減ってきてはいますが、榛原地域義務教育学校の開校年度である令和12年度の児童生徒数の推計（令和6年度静岡県の児童生徒数・学級数調の人数から算出）は、相良地域、榛原地域合わせて2,015人のため、1学年のクラス数が6～7クラスとなっています。

2校の場合は次のとおりです。

相良地域 857人 9学年で26クラス（1学年2～3クラス）

榛原地域 1,158人 9学年で36クラス（1学年3～5クラス）

長期的に見たときに、児童生徒数が減少しても、相良地域は1学年2クラス、榛原地域は1学年3クラスで推移すると見込んでいますので、義務教育学校を相良と榛原につくる計画を見直すことは考えていません。

子どもたちの教育環境の充実のために、現在の計画どおり、着実に進めていきます。

「市民トーク（相良地区）」の当日参加者による質問

※会場での質疑応答を要約してあります。

追加質問 1 日本一女性にやさしいまちの推進、住宅を建てやすい環境整備について

「女性に優しいまち」というテーマは、子育て世帯や妊婦への支援としては分かりやすいが、実際に意見を聞いてみると高齢女性からの声も多く寄せられており、「女性」とひとくくりにしても対象は幅広い。特に高齢層からは、施策の変化が見えにくいという指摘もある。市長が掲げる人口増加の方向性は理解できるが、その実現には従来の取り組み方を変えていく必要があると考える。「日本一」を標榜している以上、県内一位ですら簡単ではなく、これまで以上に特色ある大胆な取り組みを進めなければならない。せっかく大きく打ち出しているのだから、他にはないような変化を実現してほしい。

子どもの減少は特に相良地区で顕著であり、同地区は住宅用地が少ないことが課題となっている。道路整備に合わせて周辺を宅地化するなど、市として積極的な方針を示せば人口増加につながると考える。実際、菅山のバイパス沿いや榛原病院奥の細江地区では、新しい住宅地が増えている。こうした変化を踏まえ、相良地区でも宅地供給の仕組みを整えなければ、新たな住民を呼び込むことは難しい。市の改革として、住宅を建てやすい環境整備の検討を求めたい。

【回答者（市長）】

女性は乳児から高齢者まで幅広く含まれるため、「女性に優しいまち」という言葉が人によっては実感を持ちにくく、満足度につながらない面がある。子育て世帯やこれから子育てを始める世代には一定の理解は得られていると思うが、表現の仕方や伝え方によって受け止め方が異なるため、今後は解説や補足を加えるなど丁寧に説明し、意見を踏まえた対応が必要である。

2 点目の部分ですが、牧之原市では、住宅化を希望する土地の多くが農振農用地であり、牧之原畑総事業の影響から除外が非常に難しい。現在インターチェンジ北側で高台開発を進めているが、これも許認可の隙間を縫うような対応で実現した。農振農用地を宅地化するには、事業実施から 8 年経過すれば除外が可能になる場合もあるため、その点を踏まえた区画整理や都市計画事業としての整備が必要である。点的な除

外では限界があり、計画的な宅地開発が求められる。市内には企業も多く、従業員の住宅需要もあるため、新たな宅地開発に積極的に取り組んでいきたい。

追加質問 2 市への要望事項について

事前に市へ要望している件として、大江区から平田寺の坂を上り大磯原片浜区へ至る道路沿いで樹木が生い茂り、車に接触する問題がある。シルバー人材センターによる草刈りは行われているが、樹木伐採は実施されていないため、管理をお願いしたい。また、150号バイパスと473号バイパスの菅山インターから須々木インター間では路面が波打っており、走行時に車が跳ね、バス利用でも乗り心地が悪い状況である。市から島田土木事務所へ改善を要請してほしい。さらに、菅山インター周辺の市道には行き先案内看板がなく、来訪者からも分かりづらいとの声がある。コストの問題があると聞いているが、高架下や交差点手前などに適切な案内看板を設置してほしい。併せて、子生まれ温泉への案内表示も充実させていただきたい。

【回答者（池田建設部長）】

大江の平田寺から原へ上がる道路の枝の張り出しについては、既に業者に枝払いを依頼しており、7月に作業予定である。また、山から伸びている木については、所有者に管理を求める通知を引き続き行っていく。国道150号バイパス・山手バイパスの舗装の波打ちに関しては、市から県へ以前から依頼しているが、予算の都合で対応が進んでいない。今後も地域の強い要望として前面に出し、県に修繕を働きかけていく。さらに、菅山インターの案内看板については、市道に設置してはいけないわけではなく、県が管理するバイパスの乗降案内であるため、市から県に設置を要請し、検討を進めていきたい。

追加質問 3 相良小学校跡地について

学校跡地について、相良小学校は相良地区で一番大きな小学校である。子育てするにはやはり公園が欲しいというようなこともあるので、ぜひ防災を兼ねた公園の整備をしてほしい。相良小学校の跡は高くして、津波がきたらそこに逃げられるような施設として高台の公園を作ってほしいというのを切にお願いをしたい。

相良小学校はお城もあったところなので城址公園などの公園整備をお願いしたい。

【回答者（市長）】

ご意見の一つとして受け止めており、意見交換の場でも同様の意見が出ていると認識している。学校跡地の活用については、立地に応じて民間利用や公園利用など多様

な可能性がある。個人的には、現在の小学校が相良城の二の丸か三の丸跡に位置していることから、城址公園とする案は魅力的だと考えている。福島県白河市では広大な城址公園が整備され、資料館も城を模した建物となっており、歴史・文化を重視した活用の好例と感じた。相良でも歴史や文化を踏まえた活用は意義深いと考えるため、今後は地域住民と十分に協議し、より良い活用方法を検討していきたい。